

山行報告

◆大峰山・行者還り～弥山～前鬼縦走

日 時：4月29日（日）～5月1日（月）

参加者：リーダー 砂川（延）他10名

★【感想文】 原田（勝）

私にとっては2回目の大峰山行であるが、今回は特に残雪と、標高差で体力の心配があり、慎重に、且つ勇断に行動しなければ目的地には到着できないのでは、と思った。



所々に残雪がありました。

ドライバーを任せられ、なれない高速について行き、前鬼と行者還トンネルに分けて駐車した後、まずは弥山へ向けてレッツゴーである。約1時間の急登で、奥駆道出合で休憩

をとったが、沢つたいからはミソサザイや、シジウカラの鳴き声が心を和ませてくれる。

なだらかな尾根を進むと、1600mの弁天の森で小休止をして、スパッツを着け、残雪に足をとられながら、急登で弥山小屋へと足を運ぶ。喘いで進むと曇り空の下の特林の中に目的の建物がみえた。予定の時間でたどり着け、舛賀さんの入念なストレッチで体を癒すと、小屋の主人が丁寧に小屋利用を説明してくれた。

簡単な夕食であったが、持込のアルコールでこれからの安全を期して乾杯をする。山小屋は大体が9時の消灯でゆったりとした部屋で明日を夢みて深い眠りに入る。



る。30分で八経ヶ岳の山頂に着いたがガスがひどく、顔写真にとどまり、残念ながら近畿最高峰からの景色は見られなかった。

行動記録

場 所	着時刻 (発時刻)
加古川駅前	(7:15)
前鬼口	11:15
行者還りトンネル西口	13:15
奥駆け縦走路出合	14:35
弁天の森	15:10
弥山小屋〈泊〉	16:55
弥山小屋	(6:35)
八経ヶ岳	7:05
舟の峠	9:20
孔雀岳	12:00
釈迦ヶ岳	13:35
大古の辻	15:10
前鬼宿坊・小仲坊泊	17:10
前鬼宿坊	(8:00)
前鬼口	11:00
加古川駅前	17:50

朝食は6時からで、ご飯のおかわりをして40分に小屋をあとにしてむき出しの岩を降りるが、谷からの吹き上げの風が強いせいで、雨が多いためか倒木が多く、やがて朽ちはてコケむしてその上に次代の幼木が育っている。

途中鹿の害から樹木を守るためにネットが張りめぐらされていたが、オオヤマレンゲというモクレン科の樹木で、タイサンボクに似た白い大きな花をつけるのだが、まだ雪の斜面でしずかに眠っている。

明星ヶ岳は通過し、その先の鞍部で休憩のあと先頭をまかされ、調節するが少しずつ離れ、また調節の繰り返しで歩行速度を調整する。どうも私は先頭には向いていないのかもしれない。舟ノ峠から仏生ヶ岳、釈迦ヶ岳までは100m、200mのアップダウンで、相当足にきているにちがいないので、より慎重に足を運ぶが、残雪が多く、また小枝が道を阻んでいるため、赤いテープを頼りにしたり、迂回をよぎなくされた。



釈迦ヶ岳は見るからに急坂と思い、休憩をクマザサの上でとる。ここちよい風が頬を伝うと、ああ幸せなものだと感じる。

あえぎながら登ると30分で頂上にたどりついた。名前のとおり2mぐらいの銅製の釈迦像が、石で積み上げた1mぐらいの台座の上で東方を向いて立っていた。ひどい風雪に耐えているらしく、ひび割れがあり、それでも穏やかに山脈を見守っていた。孔雀岳からそうであったが、東斜面下は20から50mもあろうか岩石が天に向かってそびえたっている。なんとも威容な光景であろうか。

会の旗を前にして記念撮影したあと奇岩と沢を左目にし、心の中でひょっとすると泊まらなければと思った深山小屋で休憩と、飲料水が乏しかったので少し濁っていたが、岩肌を伝ってたまっていた水を補給する。

太古ノ辻はすぐで、その先は前鬼までの下山道を下ることになるが、木の階段の連続である。ひざをかばうように高度をさげるが、また階段、また階段である。二つ岩で記念撮影をするが、皆相当疲れているのではないかと思い速度を落とし、やがて宿坊跡と思われる古い石垣が見え目的地の屋根が杉木立の中から確認された。途中でミツバツツジの鮮やかな色と、またもミソサザイの流ちょうな鳴き声に癒された。

無事前鬼にたどり着いたうれしさに、みんなで握手をしあった。過酷なそして長距離であったのでよけいにこみ上げるものがあった。小屋の前でまた舩賀さんのストレッチ体操の指導にお世話になり、入念に行なう。

喉が渴いていたので、風呂前のビールは格別のうまさであった。乾杯でささやかな夕食にはいる。きさくなご夫婦そうであったが二人で宿を守ってあわただしく動いておられたので、お話を聞くチャンスがなかったのが残念であった。掲示板によると、676年からこの地を守っているとのこと。5坊あったが今はただ小仲坊のみで1300年の歴史を受け継いで、この地を守り続けており時代の流れを感じる。快晴の空であったので星を見たかったが、明日玉置へめざすグループに迷惑がかかると思い断念した。

翌朝朝食が遅かったので近くを散歩することにし坂道を降りてゆくと、野鳥の囀りがすごく、清流が岩肌をぬう音が新緑に覆われた谷間からこだまする。

朝食のあと、お世話になったお礼をして小屋をあとにする。もう一台の車を取りに移動するが、途中不動七重滝のすごさに惹かれ車を止める。切り立った山の間から落ちる水はやがて青々とした滝つぼへと数回落ちてゆく。自然美のすばらしさである。

昨年の問題の和佐又ヒュッテで昼食を摂り、吉野で柿の葉寿司をおみやげに帰路へついた。

仏生ヶ岳付近で出会った登山者から、熊が出没したと聞き、また前鬼の宿には、このまま行けば熊はあと少しで大峰から姿を消すと警告のポスターが張ってあった。大切な自然は誰のものか、多くの自然が残されている大峰山脈の道は本当に大切にしなければならない登山道であろう。だから自然世界遺産に指定されたのであろう。

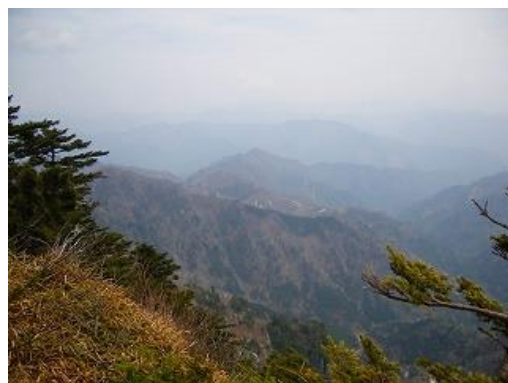
★大峰山系 弥山～八経～釈迦岳 吉井

加古川駅北口 7 時 15 分集合。一行・11 人は乗用車とレンタカーに分乗し、目的地（弥山～八経～釈迦岳）を目指して出発。

第二神明、阪神高速、大阪環状、阪奈、南阪奈・・・を快走。登山口の行者還りトンネル西口へ 13:15 到着した。連休でもあり駐車場は満車状態である。

いざ、本日の宿である弥山小屋へ。

弥山小屋への上り約 3 時間は 2 日目の余りの過酷な行程に私の脳裏からは吹き飛んで殆んど残ってない。小屋に着く前の雪道と着いた時の喜びぐらいである。年令不詳の小屋の主人から丁寧な説明を受け食事。米だけは大変美味しかった。



9 時消灯、少し寒くなかなか寝付かれなかった。外のテント泊まりの人は寒いだろうなど。

2 日目 6 時 30 分ストレッチの後、今夜の宿、前鬼を目指し出発。

八経ヶ岳は日本百名山のひとつ大峰山の最高峰で、大峰山を南北に二分する中心部にある。釈迦ヶ岳は大峰山系の中でも第一の秀峰で、山頂に青銅の釈迦如来像がある。

途中、原田さんを先頭に雪の残り道を歩く。途切れ勝ちなテープと僅かな踏み後を道標に・・・歩く

北アルプスの岩稜も迷い易いが、この雪道はさらに迷い易いと思った。

大峰山系の山は見た目にはアルプスほどの荒々しさはないが、厳しさはそれ以上であろう。最後の下り 3 Km 程の長かった事、下りの木の階段は大変きつかった。次の挑戦はこの下りを登る所から始まると聞き、闘士がわくと同時に大変不安も覚えた。前鬼の宿坊はゆったりと休めた。この宿坊は 1,300 年の歴史があり、現在 61 代当主・前鬼助義之さんが守っている。

今回は 3 人娘の山に対する必死の挑戦が際立つ山行であったように思います。帰りの昼食は和佐又ヒュッテの山菜うどん。これが美味しかった・・・

本当に美味しかった。次を楽しみに。